

海外文献紹介

Elizabeth Warren, Amelia Warren Tyagi 著

『あなたのすべての価値—究極の生涯
マネープラン』にみる愛情とお金の関係

宮坂 順子

はじめに

本書 (*All Your Worth: The Ultimate Lifetime Money Plan*, by Elizabeth Warren and Amelia Warren Tyagi, 2005, Free Press, 289p., New York) は題名からも明らかなように、一般大衆向けに書かれたマネープランの実用書である。著者の一人である Elizabeth Warren はハーバード大学法学部教授であり、長年、米国のファイナンシャルトラブルを研究テーマとしてきた。家族や夫婦関係に焦点を当てた破産者の実態調査分析からは、多くの興味深い成果が出されている¹。また、オバマ政権では、金融制度改革において消費者向け金融商品の監督局 (Consumer Financial Protection Agency) を構想するなど、現在の米国の金融政策にも関わる人物である。

一方、Amelia Warren Tyagi は彼女の娘であり、大手経営コンサルティング会社籍の経歴を持つ。この二人は2003年に、米国連邦裁判所の膨大な破産者データの分析と詳細なインタビュー調査を基に、"*The Two-Income Trap: Why Middle-Class Mothers and Fathers are Going Broke*²" を著し、米国の共稼ぎ世帯における家計破綻の実態を明らかにし話題となった。

本書は、こういった Warren らの長年にわたる研究成果に裏打ちされている。題名にもあるように、生涯にわたる生活設計を考えるための的確なアドバイスが数多く盛り込まれており、それらは問題の本質を鋭くつき、説得力がある。読者に今自分たちが抱えている本当の問題は何かを気付かせる。一時しのぎの多くのマネープランの書と明らかに一線を画している。

ジャケット部分の出版社のコメントにも『あなたのすべての価値』は思いつきや推論で書かれたものではありません。20年以上にわたる徹底的な調査分析を基にしています。その結果、著者たちは、あなた方に離婚といった安易な解決策は提示しません。また、的

¹ Sullivan, T.A., Warren, E. and Westbrook, J.L. (1989, 1995, 2000), Warren, E. (2002).

² これは2003年にハードカバーで出版された際の書名であり、2004年に出されたペーパーバックでは "*The Two-Income Trap: Why Middle-Class Parents Are Going Broke*" とタイトルが一部変更されている。しかし、出版社、内容は同一である。筆者は既にこの資料の紹介を行っているので参照されたい (宮坂 2009a)。

外れの問題解決に無駄な時間を費やすこともありません」と記載されている。

以上のことから、本書はマネープランの実用書ではあるが、その内容からは Elizabeth Warren らの長年の研究成果を読み取ることができる。筆者をはじめ同様の研究を行う者にとって有益な研究資料となり得るので本稿で紹介したい。

1. 本書の概要

本書の構成は以下のようになっている。

はじめに：お金の真実

パート 1 豊かな人生への 6 つのステップ

第 1 章 ステップ 1 すべてのあなたの価値を数え上げてみよう

第 2 章 ステップ 2 思考のわなから逃れよう

第 3 章 ステップ 3 ペニーではなく、ドルを数えよう

第 4 章 ステップ 4 楽しむ余裕がなければ、人生のゆとりもない

第 5 章 ステップ 5 未来を築くために、過去を清算しよう

第 6 章 ステップ 6 少しずつ、夢を築いていこう

パート 2 パワフルツール

第 7 章 愛情とお金：それをすべて手に入れる

第 8 章 大きな買い物：あなたにとって正しい家の買い方

第 9 章 ファイナンシャル CPR³：事態が悪化したときは自分を守れ

結び：それはお金ではない

謝辞

索引

本書は大きく 2 部に別れている。前半のパート 1 では、「豊かな人生への 6 つのステップ」と題して、適切な家計管理についての具体的なアドバイスが述べられている。たとえば、第 1 ステップでは、家計はニーズ、ウォンツ、セービングの 3 要素から成り立っており、目安として、それらの健全な配分（50%、30%、20%）から大きく乖離している場合は、問題の多い生活であると指摘している。第 2 ステップでは、「しかし、家はとても高い」とか「しかし、子どもがいるから」とか「しかし、妻が働いていないから」といった言い訳は、家計の改善から逃げていることに他ならないと指摘する。第 3 ステップでは、多くの人が必需品と考えているものも実はそうではない場合があるので見直しが必要であったり、節約するためにクーポン券集めで時間を費やすよりも車や住宅ローンの

3 CPRにはいくつかの異なった意味があるが、本書には CPR の正式名称の記載がない。そこで、ここでは Cardio Pulmonary Resuscitation（心肺蘇生法）から、Financial CPR を「財政蘇生法」といった意味と考えてみたい。

借り換えといった長期的で大きな支出を再考することが必要だと述べている。第4ステップでは、前章の努力を行った場合、ウォンツにかなりまわすことができるが、その際、支出に上限を設けることやクレジットカードは使わないことをアドバイスしている。第5ステップでは、家計配分が適切に回るようになってきたら、20%のセービングで借金の解消を行うべきだとアドバイスしている。第6ステップでは、借金返済後の貯蓄や投資についてアドバイスしている。

後半のパート2「パワフルツール」では、お金に関わる3つの大きなテーマを取り上げ、その改善策をアドバイスしている。まず第7章ではお金とカップルの関係性について、第8章では生涯の中でもっとも大きな買い物である住宅購入について、最後の第9章では緊急時の対応策についてである。

本稿では、筆者が最も興味をもった第7章「愛情とお金：それをすべて手に入れる」を取り上げる。

2. 第7章に見るパートナーとの愛情とお金の関係

(1) ファイナンス上の不一致は即離婚？

第7章の冒頭でWarrenらは、結婚式で「病めるときも貧しいときも」と誓い合ったカップルのみならず、どんなに愛し合っている事実婚カップルでも、ファイナンス上の不一致が起こるのは当然のことだと指摘する。

「ファイナンス上の決定を行うとき、一般的なアドバイスは、二人で合意することだといわれています。それは理にかなった至極もっともな事に聞こえます。そしてそうならなかった場合、ファイナンスの専門家の多くは、(お金がかかるにもかかわらず)結婚カウンセリングを薦めたり、あるいはパートナーの改造か離婚しか先の希望はないといってあなたを混乱させるでしょう。そこで、私たちはあなたに言いたいのです。それはまったくナンセンスだと。真実は、すべてのカップルはお金に関して一致することはないのです。あなたは自分がまったく知らなかった相手のクレジットカードの請求を見て、わめき散らしたことはありませんか。どんなカップルも時々口論します。なぜでしょうか？それはお金とは、毎日何百もの選択に関わる事柄だからです。とても愛し合っている者同士でさえ、往々にして、そのうちのいくつかの選択は一致しないのです」(p.198)。

私たちは常にお金のバランスを考え、たくさんの新たな選択を行っている。その結果、それらを取り巻くコンフリクトに常に囲まれており、どんなに愛し合っているカップルの間にも、当然のことながら、さまざまなコンフリクトが生じる。しかしそれは、お金の扱いを改善するよいチャンスであり、二人でお金のことについて正面から向き合い、基本的なマネープランに合意していれば、夜もよく眠れるようになるだけでなく、より強い生活基盤を築くことができ、さらに、パートナーとの関係もよくなるとWarrenらはアドバイスする。

(2) もしも彼（彼女）が改善することを拒否したら？

Warrenらは、「お金との関係を改善することはとても無理だ」とか、「自分たちのお金のトラブルはパートナーのせいだ」とか、「気乗りしないパートナーがその気になるまでは何も改善されない」といった悲観的な考えを一時棚上げにし、「自分はお金との関係を大きく変えることができる」と強く心に思い描きなさいと呼びかけている。そして「変化を拒否するパートナーを動かす3つの鍵」として以下のようなことを挙げている。

「自分ひとりで改善可能なことをできるだけ多く実行すると約束せよ」

パートナーのせいにしていれば楽だが、それでは物事は決してよい方向に向かわない。自分ができる事、たとえば、「保険を調べる」、「財布からクレジットカードを取り出してしまって現金を使うようにする」、「退職後の年金に加入する」といった自分ひとりで今すぐに改善できることを始める。

「小言で人をよい方向に変えることはできない」

がみがみ言わない、恨みがましくしない、不平を言わない。「いくら使ったのか」とか「いつこの住宅ローンに入ったのか」といったことが、「リモコンはどこ？」と同じように自然にあなたの口から出てくるかもしれないが、それは今すぐにやめなければならない。

「物事を突っ込んではいけない」

重大な問題であるお金のことについて、ほとんどのファイナンシャルカウンセラーは、「二人で十分に話しなさい」という。話し合うことはよいことだが、しかし、大げさに「まさに今は大きな変化のときだから、キャンプデービットでのサミットの予定をたてよう！」(p.202)といったように大上段に切り出すのはよくないとWarrenらは指摘する。特に、いつもお金について口論する傾向があるカップルにとってはなおさらである。そういうときは、たとえば「いい車の保険を見つけたけど、どう思う？」とか、「わたしはクレジットカードより現金にしたわ、それはとてもうまくいっている。あなたも試してみない？」といったように少々控えめで、簡単で、わかりやすく、相手が好みそうな助言をし、パートナーにたくさんの少しと、それほど細かくない妥協（同意）をさせることである。

このように、Warrenらは、家計の改善に気乗りしないパートナーを変えるための具体的にわかりやすいアドバイスを読者に提示している。

(3) お金と配偶者との関係の8つのゴールデンルール

次にWarrenらは、家計と配偶者との関係についての大切な8つのルールを示している。第7章の最も重要な部分である。「ボートを同じ方向に漕いでいる気の合ったカップルも、オールでお互いを叩き合っているカップルもとにかく、レッスンを始めよう！（中略）完璧にできなくても、お金の厳しいコンフリクトを和らげることができる」(p.203)と呼びかける。

ルール1 「自分たちにとって何が大事なのか」

結婚したカップルに、「1つの銀行口座ですかそれとも2つですか？」という質問がよ

く投げかけられる。この質問は「財産はすべて二人の共有なのか、あるいは、自分自身の分をまだ持つことができるのか？自分が稼いだものは、自分の好きに使うことが許されるのか？」といった意図を持っていると Warren らは指摘する。結婚していない場合は、自分の財産や収入は全部自分ひとりのものだが、法律婚、事実婚を問わずパートナーがいる場合は、法律上でもお金（資産）は、共有となる。そして、借金も二人に属し、お金の決定も二人に関わってくる。

「現実的に、一方が金持ちで、一方が貧乏というのはいりえないのです。その結婚が一生続けば、あなたの片割れがゴミを漁り、路上生活をしている一方で、自分だけが快適に引退して億ションに住むというのは考えられないことです。(中略) 要するにあなたは結婚しており、あなたのお金もそうなのです」(p.205)。

ここで Warren らは社会的地位も収入も大きく差がある一組のカップルの例（夫はIBMの取締役、妻は保険会社の管理職アシスタント）を紹介している。末期がんとなった夫を、妻は仕事をやめ、24時間献身的に看病をしたが、結局、夫は妻に報いることもなく亡くなってしまった。Warren らはこの例から「公平性」(fairness) と「分かち合い」(sharing) の違いを示し、「結婚や人生というものは、あなたの、わたしの、といったことにあまり拘泥しすぎない方が、うまくいくのではないかということを書いたかったのです」(p.206) と結んでいる。

Warren らは具体的な家計管理の方法については、共同の当座預金口座をつくり、毎月それぞれがそこに給料から一定額を入金し、そこから家計の必需支出（住宅ローンや車のローンなど）やウォンツへの支出、一定額の貯蓄に当てるという提案をしている。しかしそのやり方は、とにかく二人がベストの方法を選べばよく、分離口座でも一向に構わない。大事なことは、二人とも家計の状況を把握していること、二人ともお互いを100%信頼していること、新車の購入とか退職年金基金といったような大きな決断が二人で行われていること、二人が納得いく妥協案が見つかるまで話し合いを続けることであると述べている。

ルール 2 「正直（誠実）であること ーパートナーに対しても正直であろうとすること」

自己テスト：あなたやパートナーはお金に対して正直ですか？

- ・私が何にお金を使っているかをパートナーに話していない
- ・私はパートナーに内緒でお金を借りたり、借金を溜め込んだりしたことがある
- ・私が知らないうちにパートナーが買った物を発見したことがある
- ・私はパートナーが知らないへそくりがある
- ・私はパートナーが持っているクレジットカードの借入がどれくらいあるか知らない
- ・私はパートナーがどれくらい稼いでいるのか本当に知らない
- ・私たちはお金のことについてこれまで話し合ったことがない

これらの質問にすべて「はい」ならば、二人のお金との関わり方には問題がある。

「小さなお金は人を傷つけない…でしょうか？しばらく後に、あなたはたかさんの小さな問題、すなわち、パートナーが知らないたかさんの事柄を引きずることになり、意図せずに、より大きなお金を言っている自分を発見するかもしれません」(p.208)とWarrenらは警告する。

ここで、結婚当初からのお金に関する小さなお金が積み重なり、お互いに隠し事をしていくことに薄々気がつきながら話し合うことができず、次第に夫婦の危機へと発展した一組のカップルが紹介されている。そして、「結局お金のことは隠すことができないのです。買った物をあなたは持っているし、借りたお金の支払い義務も生じます。もしもあなたがうそをつき通していたら、いつかは足を踏み外してしまうでしょう。さあ今すぐ、真実を話す決心をください。そうすれば、パートナーに楽に打ち明けることができるし、お金との関係も、パートナーとの関係も改善し、すべてうまくいくのです」(p.210)。

ルール 3 「お互いに非難し合うのをやめること」

自己テスト：あなたはパートナーと責め合い合戦に陥ったことがありますか？

- 私のパートナーは必要ないものにお金を使いすぎる
- 私のパートナーはお金のトラブルでわたしを責める
- 私のパートナーはもっとお金を稼いでくるべきだ
- 時々けんかしたとき、お互いにお金を使い合う
- 私は、自分がどれくらいお金を使っているか、あるいはどれくらい稼いでいるか（稼げないか）を正当化する必要があるのではないかと思う
- 私のパートナーはお金を使うとき、私のほしいものや必要なものは気にかけず、自分のことしか考えない
- 私は、パートナーが使い込んだ分の勘定を見ると、本当に腹が立つ
- 私のお金のトラブルは、基本的にパートナーのせいだと心の中で思っている

これらの質問にすべて「はい」ならば、二人はお金の問題で、お互いに責任転嫁したり、非難したりしてきたという問題を抱えている。

「過去は過去。息を深く吸って、(これまでの問題を)心から取り去ってみましょう。確かに寛大になることは大変かもしれませんが。この本は聖人向けに書かれているわけではありません。そこで、もしも、あなたが(相手を)許すことを神の恵みと思えないならば、勝手にすればいいでしょう！ それを乗り越えることがあなたにとって最良なことなのです。(中略)お互いを責め合うことは経済的に余裕のない家庭にとって、最も手っ取り早い方法です。「目には目を」といったお金の使い方は、あなた方を盲目にし破綻させます。そういったことを乗り越える必要があります、その結果、あなた方は経済的な成功のチャンスを得るのです」(p.211)。

パートナーを許すことは自分の行動にも責任や義務が生じる。パートナーにこれまでの自分の過ちを悔い改めたいと正直に話し、しっぺ返しの買い物合戦から早く卒業して次の段階に進むことをWarrenらはアドバイスしている。

ルール 4 「お互いにくらか自由に使えるお金を持つこと」

Warrenらは、本書の第4章「ステップ4 楽しむ余裕がなければ、人生のゆとりもない」で、すでに、お互いが好きなものに見えるお金を持つという原則を述べている。ここではさらに、自由に使える個別のお金を持つゆとりは、お互いを幸せにすると指摘する。それはへそくりとかパートナーをだますといった類のお金ではない。それは「あなたが薄いお茶をちびちび飲んでいる間に、パートナーがシャンパンをがぶ飲みして散財してしまうのではないかとか、お金を使い過ぎて破産するのではないかとといった心配を払いのけることができこそ」(p.213) 実現するもので、二人の信頼関係に基づいた自由なお金である。家計費の総額は決まっているので、二人が合意した限度内で生活することを前提として、適切な支出と一緒に協議することからスタートする。また、どんなに家計にゆとりがなくても、このお楽しみのお金の余地を残すことは必要であり、その額は問題ではないとWarrenらは述べる。そして、一度その自由なお金について二人で合意したならば一切干渉せず、徹底的にお互いの自由にすべきだと述べている。

ルール 5 「お金の問題を真の問題から切り離すこと」

自己テスト：それは本当にお金に関わることなのでしょうか？

- ・パートナーはけんかの後に丸く治めようと、時々私にとても高価なものを買ってくる
- ・パートナーは時々、私に何もしていないから（たとえば夜の外出や誕生日プレゼントといったような）と言いつつしながらお金を使う
- ・どんな意見の相違から始まって、最後はいつもお金のけんかで終わる
- ・高い贈り物をするのは相手に「ごめんなさい」を言うよい方法だと思っている
- ・お金のけんかは、どこからともなく降ってくるような気がする — 他のことを話していても、突然、お金についての口論が始まる
- ・時々パートナーに腹を立てたときにお金を使ってしまう
- ・実際に欲しくもないのに、時々「何も買う余裕がない！」と口癖のように言ってしまう

これらの質問にすべて「はい」ならば、あなた方二人は、自分たちの関係性の問題をお金の問題にすり替えているといえる。

「けんかの前にあなたは何を感じていましたか？台所がめっちゃくちゃだった？背中が痛かった？パートナーが自分のことを認めていないと感じたので逆上した？何かイライラ

したり、痛かったりしていませんか？ これらはストレートな感情であり、一番ひどい関係を映し出します。しかし、時には、二人の関係性の問題でないこともあります。—仕事のストレスやきょうだいの口論や年老いた親のことなどなど。悪いことに、これらの不愉快な感情を消し去る魔法の鏡はありません。しかも、たとえお金の問題にすり替えても、本当の問題は何も解決されていないし、なお悪いことには、他の悪いことと混ぜ合わさって、大きな新しい問題を作り出してしまうのです」(p.214)。

Warrenらは、いつもお金のことでけんかしていた一組のカップル、ライアンとエリーの例を紹介している。ライアンはしょっちゅうパブに入りびたりで、いつもエリーから、どれだけビールにお金を使っているかをくどくどと言われ続けていた。ある晩、正当に認められているいつもの飲み代を要求したライアンに、エリーは怒り狂って言った。「なぜ、いつも彼らとなの？ なぜわたしを誘ってくれないの？ いつもあなたはわたしを老婆のようにうんざりと見ているわ！……」(p.215)と。彼らのお金の口論の裏には、これまでライアンがエリーの気持ちを察することができなかったという真の問題が隠れていた。

Warrenらは、けんかの時、「お金」という言葉を取り除くことを試してみようとアドバイスしている。けんかしても「お金があなた方の兵器庫の中で一番の武器ではない場合、あなた方は、何が間違っていたかがよく理解できることに気付くはずです。そしてそれは、物事を正すよいチャンスといえます」(p.216)と指摘する。

ルール 6 「正々堂々と戦うこと」

ここではお金がけんかの原因であった場合に、相手に対して決して行ってはいけない基本のルールを示している。

- ・卑怯なまねはしない けんかの際、相手が深く恥じていたり、動揺していたりする事柄を持ち出して、相手を傷付けてはならない。
- ・共同決定したことに對して、パートナーを責めてはいけない 二人で決めた物事がうまくいかなくても、あなたにパートナーを責める権利はない。半分はあなたの責任でもあるのだから。
- ・決めつけない 本当はそうではないのに、いつも相手の不注意であるかのような言い方は、かえって物事を荒立ててしまう。
- ・いろいろな差異を個人的に侮辱しない 一方は外国の香水を好み、一方は石鹸の匂いを好む。一方がフランスのワインを好み、一方はバドワイザーを好む。これらの差異はあなた方の深層心理を表現しているのではない。また、あなたのお金の使い方がすべて正しいとは限らない。

ルール 7 「分担して攻略すること」

ファイナンス上の平等とは、意思決定や責任のシェアを意味しており、二人ですべて平等に分担しなければならないということではない。あなたとパートナーはたとえば「一人

はファイナンスに魅力を感じている（あるいは少なくとも少し興味を持っている）が、一方は、ビジネスニュースが流れると吐き気をもよおす」(p.217) といったようにそれぞれに異なった特質を持っているはずである。しかし結婚して20年、30年経つと、それぞれの役割を自分だけで行ってしまう傾向が出てくる。Warren らは、そんな時に有効なアドバイスを示している。

家計費への支出割合は、バランスマネーフォーミュラ⁴を1つのガイドラインとすることで、二人の支出割合は同じになるだろうし、雑用の分担では、ファイナンス上の雑用は他の家事等の雑用とは性格が異なっていることを認識した上で責任分担することを薦めている。たとえば、一方がきちんと整理することができる性格なら記録をとり、一方が交渉事が得意であれば、車購入の下見に行くといったように、二人の特性を生かして道理にかなった分担をすることを推奨している。

ルール 8 「妥協する術を学ぶこと」

「あなた方は、まさに幸せで健全で最良のお金の関係を築きつつあります。しかし、まだ仲たがいます。小さなことではなく、たとえば家がほしいとか新しい車がほしいといった、あなた方のお楽しみのお金ではカバーすることができないような大きなことで」(p.218)。

そんな時どうすればよいか？ Warren らは、以下の3点をアドバイスしている。

まず、第1は話し合いを続けること。十分時間をかけ、友人の話やコンシューマーレポートなどから事前にできるだけ多くの情報を集め、最終決定では二人とも100%責任が持てるようになるまで話し合いを続けることを薦めている。

第2は、物事にはタイミングがあるので、時を見計らうこと。「バケーションだ、新しいソファだという代わりに、両方のために蓄えようと決めることであなたもパートナーも得るものがあるはずですよ。時間は長くかかるかもしれませんが、二人とも正当な欲求を持っていることを認め合い、それらのために一緒に働くことです。その事実は何者にも換え難いものです」(p.219)。

第3は、大きな目標に焦点を合わせること。「たとえば二人とも家を持つことを望んでいます。二人とも穏やかに品位を持って年を重ねたいと思っています（たとえ年金額が合意できなくても）。二人とも子どもたちの安全を願っています。二人ともけんかをやめたいと思っています。そして二人ともお金の心配から解放されたいと思っています。遠近法であなた方が今同意できないことをながめてみてはどうですか？」(p.219) と Warren らは妥協する術も大事であることを示唆している。

4 家計のニーズ、ウォンツ、セービングの3要素の比率のことであり、それらの健全な配分の目安が50%、30%、20%であることをさしている。第1章 ステップ1で詳しく取り上げられている。

(4) 関係性の本質

「お金は最も身近で難しいものといえます。お金は幼児期から形成されてきた価値観や生活態度に包まれています。(中略)よくも悪しくも、あたかも私たちが表現するすべてのものが、自分のお金の使い方に置き換えられて示されているように感じられます。(中略)あなたとパートナーとの間にある相違は捉えにくく、説明することが難しく、地雷はいたるところにあります。なお悪いことに、お金の問題は私的です。しかし、たとえあなたがお金のことを決して話したりしなくても、お金との関係は明らかとなるのです。それを毎日議論するか、あるいは覆い隠すのか。誰が働き、誰が使い、誰が請求書の支払いをするか、どれくらい借金するか、どれくらい蓄えるかをあなたとパートナーで決めるのです。そういったことすべてがあなた方のお金の関係を形作っていくのです。

すべてのお金との関係は改善することができます。どこからはじめても問題はありません。なぜならばお金は、あなた方の関係性にかかわっているので、その改善で可能となるのです。さあ試してみましょう。

もしも本書に書かれてあるアイデアがあなた方にそぐわない場合は、とにかくお金のバランスを取るということだけでも続けてください。その結果として、あなたとパートナーは受けるに値する楽しい、実り多い、価値のある関係性が築けるでしょう」(pp.219-220)と第7章を締めくくっている。

まとめ

冒頭述べたように、本書はマネープランの実用書でありながら、長年にわたる研究成果に裏づけられたさまざまなファイナンシャルトラブルの真の問題点が巧みに盛り込まれている。特に本稿で取り上げた第7章では、お金の問題の影に隠れて見えなかったカップルの関係性の歪を、いくつかの事例を紹介しながら読者にわかりやすく示している。

Elizabeth Warren はこれまでの調査分析において、常に詳細なインタビュー調査を実施してきている。冒頭に紹介した Warren 親子の初の共著書である *"The Two-Income Trap"* の中の、ファイナンシャルトラブルに直面しているシングルマザーの分析箇所、そのことにふれた以下のような記載がある。

「典型的なアプローチならば、彼女の夫が出て行った日から調査を始めただろう。離婚裁判所はこの女性世帯主世帯をどう扱ったか？子供の養育費や別居手当の十分な支払を命じたのか？元夫は法的な責務に従ったか？といった一般的な質問をするだろう。しかし、問題は彼女が結婚した時、彼女と夫が月々の支出を二人の給料でやりくりしていた時、共稼ぎの罫につまずいた時に遡って始まっているのである」(宮坂 2009a より抜粋)。

筆者も日本のファイナンシャルトラブルである多重債務問題において、家族やカップルの関係性に注目してきており、これまで Elizabeth Warren らの研究成果からは多くの示唆

を受けてきた⁵。いまだに債務整理と家計指導の域を出ない日本の多重債務者対策の現状を考えると、本書のような多くの人々が手にする実用書は、ファイナンシャルトラブルの真の姿を広く社会にアピールできる一つの有効な手段であると思われる。

引用文献

- Sullivan, T. A., Warren, E., and Westbrook, J.L. (1989) *As We Forgive Our Debtors: Bankruptcy and Consumer Credit in America*, Oxford University Press.
- Sullivan, T. A., Warren, E. and Westbrook, J.L. (1995) *Bankruptcy and the Family*, McIntyre, Lisa j., Sussman, Marvin B (eds.), *Families and Law*, The Haworth Press.
- Sullivan, T. A., Warren, E. and Westbrook, J.L. (2000) *The Fragile Middle Class: Americans in Debt*, Yale University Press.
- Warren, E. (2002) What is a women's issue? Bankruptcy, Commercial Law, and other gender-neutral topics, Working paper, *Harvard Women's Law Journal*, Vol.25, 19-43.
- 宮坂順子 (2005) 「多重債務者問題にみる『日常的貧困』についての研究 —消費者教育・ジェンダー・生活福祉」昭和女子大学博士論文
- 宮坂順子 (2008) 『「日常的貧困」と社会的排除 —多重債務者問題—』ミネルヴァ書房
- 宮坂順子 (2009a) 「米国の消費者破産にみる女性と家族」『昭和女子大学女性文化研究所紀要』No.36, 91-99.
- 宮坂順子 (2009b) 「多重債務問題にみる現代の家計と消費—バルネラブルコンシューマーとは」堀内かおる編著『福祉社会における生活・労働・教育』明石書店
- 宮坂順子 (2009c) 「多重債務問題に見る現代の貧困と家族」『家族研究年報』No.34, 15-28.

(みやさか じゅんこ 生活科学部環境デザイン学科非常勤講師 女性文化研究所研究員)

⁵ これまで、宮坂 (2005, 2008, 2009a, 2009b, 2009c) 等でとりあげている。